

# 医学教育分野別評価 浜松医科大学医学部医学科 年次報告書 2022年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度  
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2  
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34

## はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和3年2月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 34を踏まえ、令和3年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和3年4月1日～令和4年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 34の転記は省略した。

## 2. 教育プログラム

### 2.1 教育プログラムの構成

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・第1年次における少人数の「人間科学ゼミナール」や、第2年次から第4年次におけるPBLチュートリアルで学生の学修意欲を刺激するプログラムが採用されている。
- ・PBLチュートリアルで、教員だけでなく第5年次学生もチューターを務めていることは評価できる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年度のコロナ禍においてもPBLチュートリアルをオンラインで教員だけでなく第5年次学生もチューターを務める屋根瓦方式で実施した。

### 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

#### 基本的水準

##### 改善のための助言

- ・行動科学について6年間にわたり、らせん型かつ系統的に教育すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年度からの新カリキュラムにより行動科学と医療倫理は1年から6年までの垂直的統合カリキュラムを構築した。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料01 行動科学・倫理学の新カリキュラム全体像

### 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

#### 質的向上のための水準

##### 改善のための示唆

- ・基礎医学カリキュラムにおいて、学生の学びやすさの視点から教育内容の順次性を検討することが望まれる。
- ・臨床医学を理解し実践するための基礎医学、行動科学および社会医学の視点でカリキュラム

の垂直的統合をさらに推進することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年度からの新カリキュラムにより行動科学と医療倫理は1年から6年までの垂直的統合カリキュラムを構築した。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料01 行動科学・倫理学の新カリキュラム全体像

## 5. 教員

### 5.1 募集と選抜方針

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・11の寄附講座を設置するなどして特任教員を採用し、常勤教員を確保していることは評価できる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

訪問調査受審時点から寄附講座が産婦人科地域医療学講座及び浜松成育医療学講座の2講座増え、特任教員も4人増えている。

産婦人科地域医療学講座では産婦人科医などの人材育成及び地域医療の充実を目的としている。

浜松成育医療学講座では成育過程（胎児期、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期を経て成人期にいたる成長過程）における医療、主に、小児科医で希少難病の診断・治療、移行期医療、小児在宅医療、小児災害時医療に関する研究を行い、行政・福祉・保健・教育機関と連携し、成育過程における切れ目のない、より充実した医療の実現を目指している。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料02 寄附講座一覧

## 6. 教育資源

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

##### 改善のための助言

・学生に携行可能な医療安全・感染対策マニュアルを配付し、遵守させるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年から医療安全ポケットマニュアルを配付し、臨床実習の際に携帯させた。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料03 医療安全ポケットマニュアル

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・講義、実習、個別学修などの改革・発展に合わせて、設備などの改修が継続的に行われている。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

図書館及び福利施設棟の改修を行い自主学修やグループ学修のスペースを整備した。

## 改善状況を示す根拠資料

資料04 図書館チラシ（スマートライブラリ）

## 6.2 臨床実習の資源

### 基本的水準

#### 改善のための助言

- ・適切な臨床経験を積めるように臨床実習施設を十分に確保すべきである。
- ・一次医療などを学生が確実に学べるように地域医療施設を十分に確保すべきである。
- ・学内外の臨床実習指導者に対して、指導法や評価に関するFDを充実すべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

浜松医療センターの各診療科に実習先としての協力の案内を出した。昨年より1つ多い診療科の実習先（放射線科）を確保した。

地域医療実習のための医療機関を2か所増やした。（坂の上ファミリークリニック、浜松佐藤町診療所）

## 改善状況を示す根拠資料

資料05 臨床実習の手引 令和3年

## 6.3 情報通信技術

### 質的向上のための水準

#### 改善のための示唆

- ・診療参加型臨床実習を充実させるために、学生が電子カルテを活用しやすい環境を整備することが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

電子カルテシステムに連動させた文書ファイルに学生が記載する「カルテ学生記載システム」を導入して2020年度よりトライアルを開始し、トライアルの結果、操作端末の不足が課題となったため、病棟への10台の追加配備を行った。

学生用の専用PCルームを附属病院内に新設する多目的ホール2階に設けることが決まり、33台のPCを設置する予定である。

## 改善状況を示す根拠資料

資料06 第3回カルテ学生記載システムWG議事メモ

資料07 第4回カルテ学生記載システムWG議事メモ

## 6.5 教育専門家

### 質的向上のための水準

#### 改善のための示唆

- ・医学教育に関わる研究をさらに推進することが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育推進センターが医学教育学会で医学教育についての4演題を発表した。

また、日本シミュレーション医療教育学会及び日本医学シミュレーション学会へ各1演題を提出した。

## 改善状況を示す根拠資料

資料08 医学教育学会、日本シミュレーション医療教育学会及び日本医学シミュレーション学会 プログラム等

## 7. 教育プログラム評価

### 7.1 教育プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・ IR室が中心となり、各学生の入学時から卒業時までの成績や進路の情報が集められ、カリキュラム評価委員会が分析を行っている。
- ・ 2018年に卒業生アンケートを行い、直近10年間の卒業生に対して業績調査と在学時のプログラム評価を行った。

##### 改善のための助言

- ・ IR室が収集したデータをもとに、6年間の学修成果をモニタすべきである。
- ・ プログラムとその主な構成要素を適切に評価すべきである。
- ・ プログラムが学生の進歩を促すように整備されているかを適切に評価する仕組みを確立し実施すべきである。
- ・ プログラムの各構成要素について、どのような課題があるかを特定する仕組みを確立し、カリキュラム改善を実施すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各学年のGPAとCBTとの相関関係を解析した。学年の進行に伴った学修が順調に行われていることを確認した。

## 改善状況を示す根拠資料

資料09（部外秘） GPAと共用試験CBT成績との関係等